

令和7年度 第2回長崎県地域職業能力開発促進協議会

議事要旨

日 時 R 8.2.20 (金) 13:30~15:00

場 所 長崎労働局 8階会議室

出席者 別添名簿のとおり (ただし、(株)長崎新聞社 森永氏は、急遽欠席)

長崎労働局長あいさつ

◆議題

(1) ハロートレーニングの実施状況等について

【事務局】

- ・資料1、資料2、資料3 (1~3、9~11) に基づき「雇用失業情勢等」、「職業訓練に関するニーズ」、「ハロートレーニングの実績状況等」について説明

【長崎県】

- ・資料3 (4~5) 県の施設内訓練、委託訓練及び在職者訓練について説明

【機構長崎支部】

- ・資料3に基づき(6~8)ポリテクセンター長崎、佐世保の離職者訓練、在職者訓練及び求職者支援訓練について説明

◆意見・質問等◆

なし

(2) 令和8年度長崎県職業訓練実施計画(案)について

【事務局】

- ・資料4に基づき「令和8年度長崎県職業訓練実施計画(案)」について説明

◆意見・質問等◆

【中島構成員】

計画の中身等についてはではないが、先ほどのご説明の中の在職者訓練4ページ(4)の「公共職業訓練の実施計画」の説明の中で、在職者のアーク溶接を新設したということで、定員数も昨年度と比較して、増えているという説明があった。

これは県の高技専で実施するという理解でよろしいかということと、これについては、在職している外国人の方のことなので、その受け入れをしている企業のニーズに基づいてということなのかということと、規模数がどれぐらいのコースで教育をしていくのかというのが分かればご説明いただきたい。

【長崎県】

まず、実施場所は長崎・佐世保の高技専で行う予定としている。

訓練に対するニーズについては、あらかじめ企業様から、アーク溶接の実技の方はなんとか企業で行えるが、学科の方がなかなか行えないというような要望を受けたので、通訳付きで、学科の訓練を時間数 16 時間で組んでいるところ。

規模数については、長崎・佐世保校で、それぞれインドネシア語、英語、ベトナム語の3か国語×2校で、6コースを考えている。

【長崎県】

少し補足すると、まず外国人向けの在職者訓練、アーク特別教育の講習については、今年度に企業から相談があり、先ほどの説明で特別教育、実技の方は会社でできるけれども、学科を教えるノウハウがない。また言語のハードルが高いので、学科で指導するときの通訳も含めた講習とのオーダーがあって、テスト的に今年度1つの会社10名、インドネシアのコースを開催させていただいた。そこから、潜在的に県内にニーズがあるのではないかとということで、次年度計画コース数としては、県として6コース分の予算を確保している。

その上で、2月の月上旬に、県内の溶接関連企業にはどれくらいニーズがあるのかというのをつい先日、調査させていただいた。今、溶接協会の関連企業あるいは県工業会の溶接関連企業から、アンケートを徴取したところ、細かい数字を覚えてないが、インドネシアのコースで、主に長崎地区で27名、ベトナム語のコースが6名ぐらい、「受講できますか」というアンケートに対して、「受講する」あるいは「受講を検討する」という回答があった。

逆に、佐世保地区の方では、今のところインドネシアとか言語コースを含めて「どれくらい受けていい？」というのが0回答だったので、その辺はオーダーを受けながら調整することになると考えている。

【黒川構成員】

少し補足すると、今開拓したのは7社、1社に50名強ぐらいだが、まだ受け入れの予定などはつきりしてないところもあるため、5月から徐々に実施し、夏以降にもう一度、要望を聞きながら、それぞれに対応していく予定。

先ほどの6コースについては、人数的には大体10名から20名ぐらいの座学のみとなる予定。

【会長】

私もよく存じ上げないが、これはなにか資格試験があるということか。

【黒川構成員】

アーク溶接の特別教育と言いまして、企業が義務付けされた安全教育があるが、本来企業側でやるべき措置なので、本来であれば外国人の方も実際入られた企業で実施するが、今回はたまたま来られた方々に対して、その企業と話をして、タイミングがあったので実施した。実際3年目から5年目ぐらいの人達だったが、結局その安全教育を受けたかどうかというのは、証明書などをその企業で出したりしていないので、本人たちは受けたと言っても、企業としてはやはり不安があり、高技専の方

で受講をして、履歴を証明書みたいな形で渡すというところまで今回行った。しかも通訳付きで実施したので、非常に理解も良くて、長崎新聞にも掲載されたが、参加者の企業側にも非常に好評だったので、予算をとって、しっかり来年やっていくという形で考えている。

～計画（案）について異議なし～

●計画（案）について全員承認

【会長】

令和8年度の計画は、未確定である 5 計画期間中の公的職業訓練の対象者数等の（3）非正規雇用労働者等が働きながら学びやすいオンラインを活用した公共職業訓練（委託）実施計画以外については原案のとおりとする。

未確定部分については、確定後速やかに会長に報告することとし、修正については、会長一任といたしたいと考えているが、そのように取り扱ってよろしいか。

～異議なし～

（3）訓練効果の把握・検証を実施する訓練分野の設定（案）について

【事務局】

・資料5に基づき「訓練効果の把握・検証を実施する訓練分野の設定（案）」について説明

～構成員より意見なし～

【会長】

原案の通り、介護分野について、ワーキンググループにて、事務局は効果の検証の方をお願いしたい。

（4）公的職業訓練の広報について

【事務局】

・資料6に基づき「公的職業訓練の広報」について説明

◆意見・質問等◆

なし

（5）その他、意見交換

◆全体の意見・質問等◆

【黒川構成員】

これは、全体的にどこというポイントではなかったのですが、最後に少しお話をさせていただきたいと思ったが、例えば資料1の7ページにある、特に事務職は、0.92という求人倍率、弁護士等の法務・経営・文化芸術等の求人は0.6倍で、企業側にとってあまり望まれていない業種。一方で、非常に望まれている業種というのも、専門性の高い業種は多いと思う。

県の方の例えば資料4の計画の中で、ほぼものづくり系の学科となり、入校率も低いですが、例えばこ

の受講生の状況で、①で公共職業訓練（離職者訓練）ということで、6年度は3名ほど、いわゆる高技専に普通に入校いただいている離職者となる。7年度は「一」になっているが、（2）の③のところで、学卒者訓練は、基本的に高校の新卒者を対象にはしているが、これまではポリテクさんとの棲み分けもあり、ものづくり系に関しては、基本的に新卒者は高技専で、離職者はポリテクさんでというような棲み分けもあったが、全国的には4割とか5割とかという割合で、高等技術専門校で離職者を抱えているところも増えてきている。何を言いたいかというと、要は先ほどのギャップの話で、ものづくり分野に求人があるにもかかわらず、なかなかそういった分野でも人が増えていかない一方で、今、いろんな新聞でもブルーカラー・ミリオネアなんてケースがあったアメリカあたりでは、会計士とか弁護士が、配管工とか電気の資格をとり、転職して給料が上がるといった世界が出ている。要はAIに取って代わられているという今、現状で、事務は仕事がどんどん無くなっていくと思う。今、県の方で国から委託させていただいている、公共職業訓練の委託訓練の方も専門学校さんなどをお願いしているが、ITも今、ほぼ生成AIを使えるような人材を育成するなど、そういった内容が入ってきている。今後もこの傾向は変わらないのではないかといいところもあるので、ぜひ、今後、その求職者とか離職者の方の希望というのは、確かに事務系に多いとは思われるが、このあたりを現状の労働市場に合わせて、導いてあげるといって、そういったところを、我々もだし、労働局、ハローワークさんの方にも、ぜひ、そういった方向にみんなが向かって、ギャップを埋められるような世界を作らないと、なかなか今後厳しくなると思う。

今後、高齢者雇用の話もあって、75まで働いている方などがいらっしゃるので、40代、50代で資格とっても、まだ20年以上働くという状況にあるので、そういったところも今後、ご留意いただいて、我々も頑張りたいと思うので、皆さんにもぜひ、お知恵を借りられればと思っているので、よろしく願います。

【事務局】

事務局の労働局の青野です。

ご指摘のとおり、まさに我々も、とても重要な事案だと認識をしており、資料1の求職者の方のニーズのところや、資料2の職業訓練の求職者のニーズというところについては、最初に職業相談とか職業訓練の相談に窓口に来られた時に、どういった希望職種ですかということ把握して、そこが検証されたりしているので、やはりなんとなく事務とか、一般事務だったら土日祝がお休みなのかな、残業が少ないのかなとか、座っている仕事の方が向いているかなみたいな形で、まず希望として登録しているニーズをまとめた資料である。職業訓練で言うと、受講あっせんについては、今年度の計画から書き込ませていただいているが、資料4の7ページの6の(3)は、職業訓練の受講生確保及び訓練修了者の就職先の確保のなお書きの部分だが、まさに求職者の希望ということで、なんとなく事務の方が合ってるかなや、これまで事務やっていたので事務系で考えたいみたいなところの希望は踏まえつつも相談の過程で、本人のこれまでの条件、求職活動の状況なども踏まえて、あなたであれば、例えば事務のこういう仕事されていたので、もしかするとものづくり関係に合うかもしれませんねという話をしながら、就職可能性を広げていくことが重要だと思っている。そういう意味では、少し長

めに、訓練をものづくりでしっかりやりたいといった方などには、高技専さんの学卒者訓練を案内したりなどというところで、聞き取りをしながら、適切な受講あっせんに努めていければと思っている。

【会長】

その件に関しては以前、プロモーションビデオを私が見せていただいた時に、溶接かなにかで、当初はそういう仕事は全然知らなかったが、やってみたら面白くて今頑張ってますみたいな、確か女性の方の体験談があったかと思う。

溶接は私も全然知らないないわけで、そういう人も多いので、おそらく上手な誘導というかあっせんをしていき、成果を出していただければと思う。

【峯下構成員】

経営者協会です。

今のお話に関連するが、最近少し思っていることがある。冒頭に有効求人倍率が令和7年平均1.11倍というお話があったが、瞬間的に1.04倍とか1.06倍というのもあったと記憶している。

倍率が減少している背景を分析しないといけないと思っており、いろんな見方があると思うが、要は企業側が求人を出す、もうそういった余力が無くなってきたというのもあるし、先ほどから出ているITやDXで、カバーできるようになったところがあるかもしれない。

ここから先は想像の世界で話しをするが、要はアンマッチングの話ともリンクするのもかもしれない。求人を出してもなかなかその採用に結びつかない、これが続いていくと企業側はどうするかというと、出しても無駄だったらもう出さないという考えも出てくる。

あと、例えば10人募集求人出して、いつももうほとんど1人か2人の紹介になってくる。そうすると10人を5人として求人しようかとなってくることも、数字に出てきているのではないかと思う。ただこれは、想像だけであるので、ぜひこの1.11倍、昨年よりだいぶ減っており、2年連続で減っている。ここをやはり分析いただきたいと思う。

今日の協議会の今後の取組にもつながっていくと思い、これは感想だけである。

【会長】

議題の方はすべて終了。

いろいろご意見もいただいたので、本日の説明に対するご意見等については、事務局の方で、取りまとめていただき、可能な限り今後の業務のために反映するようお願いしたい。

【事務局】

- ・来年度の第1回目の協議会は、10月または11月頃を予定している。
- ・具体的な日程は、また改めて連絡する。

閉会